



世界で活躍する土木技術者へ



田代 民治

土木学会 第104代会長

土木学会では、国際センターが中心となり、幅広い国際活動を行っています。私自身も、昨年は多くの国際行事に参加しました。

このうちの 하나가、昨年11月に開催された第8回「世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ」です。この講演会では、日本の建設会社による最大級の海外インフラ受注として注目された「アルジェリア東西高速道路・東工区」が紹介されました。

その際の発表で今後の課題等にも触れましたが、これは私が初めて運営に携わった海外プロジェクトでもありましたので、まずは、このプロジェクトを通して、海外で最低限必要と感じたことについて述べさせていただきます。

一つ目は、語学力に裏打ちされたコミュニケーション力です。本プロジェクトでは、契約言語のフランス語での十分なコミュニケーション力を有する工事関係者が少

なく、このことが苦戦した主要な因の一つでした。

二つ目は、技術仕様の徹底的な理解です。本プロジェクトで多く採用されたフランス規準は、日本規準と比較すると、工種によって、技術的枠組みが異なるものから、全体は似ているが細部が異なるものまであり、相違点やその理由の理解に大変な労力を要しました。

三つ目は、契約条項および現地法規の理解と活用です。「誠意は通じる」というような精神論に陥らないように、現地でも建設係争に実績のある国際弁護士事務所をアドバイザーとし、都度の意思決定に契約・法的視点からの助言を得ました。

四つ目は、日本政府による支援です。発注者である公的機関等の恣意的対応には、民間企業単独での反駁は難しく、政府による支援は非常に心強いものでした。また、現地政府機関の長と面談する機会が多い日本国大使による仲介は、



アジア土木技術国際会議の次回開催国引き継ぎ(米国ハワイにて)

係争解決の契機となりました。

海外工事には、国内工事と異なる点が多々あり、苦勞が絶えないことは言うまでもありません。この相違を乗り越えていくためには、各組織および各個人が実力を涵養する以外ありません。

学会活動の観点では、学会レベルで国と国との交流を深めるとともに、個人レベルでもさまざまな国際活動を積極的に展開することが重要だと思います。

昨年8月には私も、米国ハワイで開催された、第7回アジア土木技術国際会議(Civil Engineering Conference in the Asian Region Conference in the Asian Region : C E C A R)に参加しました。200編近い発表のうち4割が日本からの発表で、特に日本の若手土木技術者の国際化が進んでいることを頼もしく感じました。

C E C A Rは、アジア土木学会連合協議会(Asian Civil Engineering Coordinating Council : A C E C C)に所属する13か国が

集まり、3年ごとに開催されています。土木学会は、1998年の第1回開催から、C E C A Rを含めたA C E C Cの活動支援に注力してきました。

そして、今回は2019年4月に日本で開催されることとなり、それまで、A C E C C事務局も日本の土木学会が担当します。

論文投稿を含め、積極的な参加をお願いしたいのはもちろんですが、開催準備には若手、女性、シニアを含めた幅広い層の方々に参加してもらいたいと考えています。このような活動を通じて、学会の国際活動を担い、世界でも活躍する人材が育つことを期待しています。

日本の土木技術者がますます世界で活躍するために、学会の立場でもさまざまな取組みを進めていきますので、ご支援をよろしくお願いいたします。